山目校舎　小学部なのはな

学部テーマ「新学習指導要領に対応した体育の授業づくり」

～児童が主体的に学ぶ姿を目指して～

１　テーマ設定の理由

この研究を機に、新学習指導要領を学び直し理解を深めていきたい。

新学習指導要領が実施されるに当たり「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の３つの柱別に目標を設定し、３観点で評価することを意識し授業を実践する。児童の、主体的に取り組む意欲を育むことができる授業づくりを、昨年度は体育の授業実践において深めた。称賛されることや成功体験等の学習の過程において見受けられる、児童の主体的な姿を「もっとやってみたい」姿と捉えた。今年度は、これを深め、授業の中で「もっとやってみたい」姿を、より一層引き出すための支援を具体的に挙げていきたい。

２　研究方針

学習指導要領について研修を実施し、研究授業を通して、体育における主体的な姿を検討する。

（１）１年次

・研修で、新学習指導要領の変更点を学ぶ。学びを生かしながら児童が主体的に学ぶ姿を目指した授業づくりをする。

（２）２年次

・研修で指導と評価の一体化について学ぶ。学びを生かしながら児童が主体的に学ぶ姿を目指した授業づくりをする。

３　研究経過・内容

月	１年次	２年次
４月	*職員会議にて第１回全校研究会*	
５月	今年度の方向性について	
６月	研修会に向けてニーズの確認	学習指導要領研修会
７月	学習指導要領研修会	
９月	実技研修会	小低授業提案・研究会
１０月		実技研修会　　小高授業提案・研究会
１１月	小低・小高授業提案・研究会	実践のまとめ①
１２月	実践のまとめ	実践のまとめ②
R４年１月	全校研発表内容検討・確認	
２月	*第２回全校研究会*	

４　研究実践

（１）１年次

実践内容

・学部研修会で新学習指導要領「体育」の変更点や目標について学んだ。

・低学年から高学年の体育における願う姿の連続性を確認し、共通理解を図った。

・授業実践、研究会を通して、体育における主体的な姿、それを目指すための支援方法を検討した。

成果

・児童の実態を新学習指導要領に示されている段階でおさえ、目標を３つの柱に沿って挙げ３観点で評価した。主体的（もっとやってみたい）な姿を目指して授業を行い、その姿を多く見ることができた。

課題

・３つの柱が含まれた目標設定、３観点評価に不慣れだった。特に子どもに願う姿を３つの柱に当てはめることに難しさを感じた。一方でその視点をもつことで児童の目標が具体的となり、支援方法の改善に役立つと共に、主体的な姿へとつながった。

（２）２年次

実践内容

児童がもっとやりたいと思う体育の実践のために

・学習指導要領の研修会で指導と評価の一体化について学ぶ。

・実技研修会でプール指導の介助方法やボール運動の授業のヒントを学ぶ。

・個人シート、評価表を活用して指導と評価の一体化を目指し、「主体的な学び」の視点で授業づくりを行う。

ア　個人シート、評価表の活用

○個人シート

・個人の単元の目標、本時の目標、学習内容、手立て、手立ての評価、改善点等を記入する。

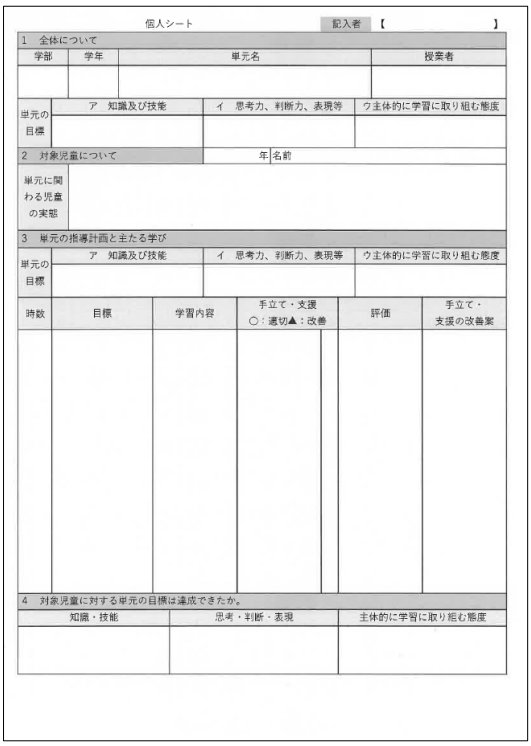
・各授業前に担任が目標、手立てを記入し、授業後、児童の評価、手立ての評価、手立ての改善点を記入し、次に生かす。主に担任が活用する。

＊（参考）

岩手県教育センター教育支援相談担当

授業づくりガイドブック

PDCA シート



個人シート　記入者【　　】

1　全体について

学部	学年	単元名	授業者

単元の目標	ア　知識及び技能	イ　思考力、判断力、表現等	ウ主体的に学習に取り組む態度

2　対象児童について　年　名前

単元に関わる児童の実態	

3　単元の指導計画と主たる学び

単元の目標	ア　知識及び技能	イ　思考力、判断力、表現等	ウ主体的に学習に取り組む態度

時数	目標	学習内容	手立て・支援 ○：適切▲：改善	評価	手立て・支援の改善案

4　対象児童に対する単元の目標は達成できたか。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

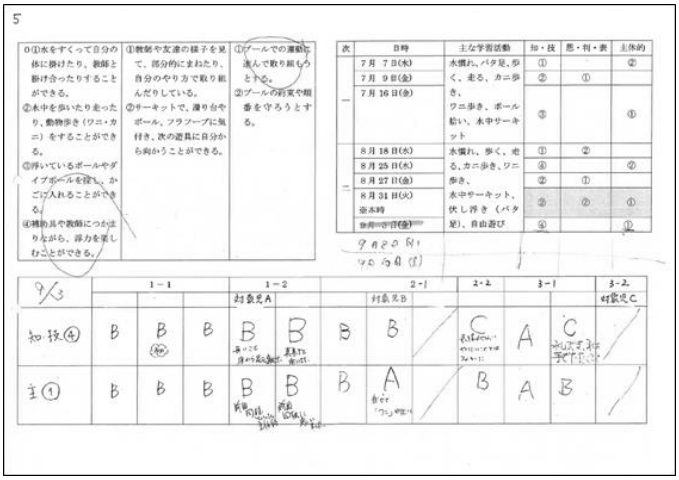
○評価表

・全体の単元目標、評価計画、児童名が書かれている。

・教員が表を使って目標を確認し、授業後、担当児童の評価をする。

（とても良いＡ　良いＢ　難しいC）

・最後にＴ１が表を確認し、次の授業に生かす。主に授業担当者が活用する。



イ　低学年（１～３年）授業実践

(ア)　単元名「プールでいろいろな運動をしよう」（７～９月）　＊指導案、個人シート、評価表は資料参照

ａ　単元の概要

本単元は、小学部１年生５名、２年生４名、３年生３名の計１２名で取り組んでいる。プール学習については、水面をたたいて水しぶきを楽しんだり、自由に水中を歩くことを楽しんだりなど、水に入ること自体は好きな児童がほとんどである。一方で、水中独特の浮遊感や、予期せず顔に水がかかることが苦手な児童もいる。「動物歩き」「サーキット運動」「自由遊び」の学習内容を繰り返したり、活動時間を十分に確保したりしながら授業を実践し、評価、改善しながら、児童がもっとやってみたいと思える体育を実践した。

ｂ　単元の目標

(a) 知識及び技能

・水に慣れ、水中で歩く、走る、しゃがむ、浮くなどの運動（水遊び）をすることができる。

(b) 思考力・判断力・表現力等

・友達や教師、遊具などの環境に気付き、部分的にまねたり自分のやり方で取り組んだりしている。

（c）主体的に学習に取り組む態度

・簡単なきまりを守りながら、水の中での基本的な運動（水遊び）に自分から取り組もうとしている。

(イ)　「主体的な学び」の視点での工夫改善による児童の様子

	工夫・改善	児童の様子
1	・見通しをもった学習のために、学習内容の視覚的提示や繰り返しの学習を設定した。	・次に何があるか分かり安心して活動ができたため、落ち着いて運動することができた。
2	・運動時間確保のためにラジオ体操の場所をプールサイドではなく教室で実施した。各学級で、T1 が準備した体操の動画を見ながら行った。	・以前は、プール割り当て時間に準備運動、プールでの運動をしていたため、入水時間が短く、もっと入りたいと思う児童が多かった。十分に水中での活動ができたため満足感をもつことができ、次の授業の意欲につながった。また、ラジオ体操も教室で行ったことは、目の前に入りたいプールが無いことで落ち着いて取り組むことができた。

３	・児童が取り組みたいと思うために遊具や、職員配置を工夫した。 〔遊具〕・水掛け用のキャラクターの的 ・水中で持ちやすいトゲトゲイガイガビニールボール　　など 〔配置〕・サーキット以外はほぼマンツーマンとし、児童がおもいきり運動しても安全なように対応した。サーキットは、「自分で～の遊具をやりたい」という気持ちを大切にするために遊具に職員を配置し、児童を呼んだり、次の遊具を送り出したりした。	・水掛け用のキャラクターの的は、児童が運動会の競技で使用し、親しみがあるため、意欲的にどんどん水掛けができた。 ・サーキットは、遊具へ自分でどんどん取り組む姿が見られた。なかなか次に進めなかった場合は、近くにいる職員が肯定的な声掛けで次に誘い、児童の動きを促した。
４	・介助方法を教員同士で学び合った。児童が体の力を抜いて浮かぶためには、鎖骨と骨盤を教師が支持することがよいと分かった。	・学び合ったことを実践し、介助した。気持ちよく浮かぶ姿勢を体験できた児童がいた。
５	・児童のタイミングを待つことや無理に児童の体を動かさないことなど「児童が安心感をもつため」の肯定的な関わりを心掛けた。	・水への恐怖心をもつ児童はいたが、教師の関わりに安心感をもち、いろいろな動きにチャレンジできた。プールは、命の危険もあるためこの関わりは特に大切となると感じた。

（ウ）　個人シート、評価表による指導と評価の一体化についての取り組みの効果

	取り組みの効果
個人シート	・各授業で評価するため、児童の変化に気付きやすく、次の指導に生かすことができた。 ・なんとなく、「できた、できない」ではなく最後にどのような姿になったか分かりやすく、来年度のプール授業の参考になるものになった。
評価表	・評価表で、C 評価が多くあった目標は、児童全体にとって適切ではないことに気付き、変更することができた。 ・評価表をもとに職員同士で授業の振り返りをしたりアイデアを出し合ったりすることができた。 ・職員がよく目にする場所に評価表を設置したことで、職員同士、目標を意識しやすかった。

（エ）　どうすれば児童がもっとやってみようと思う体育になるか（来年度に向けて）

・支援を改善しやすくなるため目標をもっと絞り、評価をしやすくする。
・介助方法を早めに学ぶため実技研修は単元前にする。
・児童の意欲向上のために遊具の充実を図る。
・挑戦する気持ちを育てるためにけのびや潜るなどのちょっと頑張ればできる運動を取り入れる。

ウ　高学年（４～６年）授業実践

（ア）　単元名「ボール運動Ⅱ～サッカーをしよう～」（10月）＊指導案、個人シート、評価表は資料参照

a　単元の概要

本単元は、４学年３名、５学年４名、６学年３名の計 10 名で取り組んだ。６月に実施したボール運動Ⅰでは、いろいろなボールを転がしたり、投げたり、捕ったり、蹴ったりする運動に取り組んだ。様々な投げ方、蹴り方を練習して、以前よりうまくボールを扱うことができるようになってきた児童が多くみられた。一方で、自分の好きなように投げたり、相手の様子を見ずに投げてしまったり、息を合わせてボールの受け渡しをすることが難しかったりする児童もみられた。本単元は２、３段階の目標や内容を基に、友達と二人で力を合わせてゴールにシュートするゲームに取り組んだ。目指した姿は、決められたルールを守りながら、友達が取りやすいボールをパスして、的やゴールに向かってシュートし、ゴールしたことを友達と喜び合える姿である。

単元の前半は、パス練習に十分な時間をかけ、友達が取りやすい蹴り方を考え、友達に声を掛け相手の反応を見てから蹴ったりすることができるように取り組んだ。後半はシュート練習やシュート発表会をし、シュートを決めて喜んだり、練習してきたパスを成功させ、ペアの友達とハイタッチをして喜んだりするなどして、児童が楽しい、もっとやりたいと思える活動を実践した。

b　単元の目標

(a)　知識及び技能

・ゴールに向かって、ボールを蹴ることができる。

(b)　思考力・判断力・表現力等

・友達がボールを受けやすいようにパスをしようとする。

(c)　主体的に学習に取り組む態度

・ルールを守って友達と楽しく取り組もうとしている。

（イ）「主体的な学び」の視点での工夫改善による児童の様子

	工夫・改善	児童の様子
1	・安心して運動するために、相性や実態を考慮したペアリングにした。	・当初はぎこちなく教師の促しで関わり合っていたが、繰り返すごとに自然に、ハイタッチや顔を見合うことで互いに喜び合えるようになった。
2	・ポイントを絞った伝わりやすい言葉や視覚的支援を行った。（例えばインサイドキックのボールを当てる靴の内側部分にシールをはったことなど。）	・シールを見てキックができる児童が多かった。また、そのできた児童を見て、できるようになった児童もいた。
3	・意欲向上のために児童に好評だった清明祭のテーマを授業でも活用した。	・「よし、ボールをキックして～を倒すぞ」と適度に意欲が上がる児童と上がりすぎる児童がいた。後者への対応を今後検討していく。
4	・研修会でボール運動の具体的題材について学んだ。	・授業の内容を吟味することができ、児童は「やってみたい」「できるようになった」という姿に近づくことができた。
5	・授業のまとめに「MVP」として頑張っ	・上手だったペアがMVPとして発表されたことによりペアで達

	た児童を発表し、児童が頑張ったことに満足感を得られるようにした。	成感、満足感を得ることができた。

（ウ） 個人シート、評価表による指導と評価の一体化についての取り組みの効果

	取り組みの効果
個人シート	・児童の成長を共有し、職員間で支援を検討できた。
評価表	・担当者は毎時間、児童の達成具合を確認しながら、評価、改善し授業を進めることができた。 ・「A」が多かったことで目標が低すぎることに気付き、目標、授業内容を改善することができた。 ・児童全員が一覧になっていることで学級以外の児童についても理解を深め、共有することができた。

（エ） どうすれば児童がもっとやってみようと思う体育になるか（来年度に向けて）

・今後も意欲の向上のためにテーマ設定を大切にする。

・今回の、指導と評価の一体化のための評価表を使った授業づくりは、職員も授業がよくなっていく楽しさを感じることができた。今後も、一体化のためのサイクルを続けていく。

５ 成果と課題

（1） 成果

・「主体的な学び」の視点で授業の工夫改善をしたことで、児童の意欲が高まったり、できたことへの満足感が増したりし、児童がもっとやってみようと思う体育を実践することができた。

・個人シートや評価表を活用し、指導と評価の一体化を図ったことで児童に対する支援、評価を整理することができ、授業改善に役立った。

・各ツールを使いやすいように「見える化」を図ったことで授業に関しての職員同士の会話が増え、情報を共有でき授業改善につながった。

・学部研修会で学習指導要領について学んでから、研究実践を進めたことは、職員間で研究について共通理解を図って進めることに有効だった。また、実技的な研修会を実施したことで、児童への適切な支援を学ぶことができ、児童の運動の向上に役立った。

（2） 課題

・今回の実践で、適切な目標設定の難しさを感じた。児童の実態に見合ったものかを確認しながら単元を進め、改善していく。

・指導が途切れないようにするために、次年度への引継ぎをどうすればよいか検討していく。

６ まとめ

本研究は、「体育」において、新学習指導要領に対応し、児童の主体的な姿を目指すために、職員が研修会で学び、各ツールを活用しながら、指導と評価の一体化を図ることで研究を進めてきた。特に、適切な目標設定、実践、評価、改善のよりよいサイクルが生まれ、児童のもっとやってみたいという姿を引き出すことができた。

参考資料 ・特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領 平成 29 年 4 月告示・岩手県教育センター教育支援相談担当 授業づくりガイドブック

・新学習指導要領 「体育」目標と評価～指導と評価の一体化のために～ 岩手県立総合教育センター 教育支援相談担当

・「指導と評価の一体化」に向けたハンドブック 小・中学校の学習評価に関する参考資料【岩手県版】～平成 29 年改訂学習指導要領を踏まえて～ 令和 3 年 2 月岩手県教育委員会